

ポストコロナ社会を担う人材育成プログラム：ロジックモデル①（現状分析と課題の整理）

<現状把握・分析>

- 革新的技術の社会実装や新たなイノベーションには人文・社会科学分野やSTEAM、リベラルアーツ等の知見が必要であることが主張されるなど、旧来型の、ごく狭い範囲の「科学技術」は、領域の拡大が迫られ続けている。※1
- 本年6月に科学技術・イノベーション基本法が改正され、「現代の諸課題に對峙し、持続可能な社会を実現するため」に人文・社会科学の振興が必要なものとして「人文科学を含む科学技術の振興」が目的に盛り込まれ、学術や人材育成においてもより広範な能力が求められるようになっていく。
- 社会全体にパラダイムシフトを迫るポストコロナ時代においては、多くの有識者から、高度な専門的知識を身に付けた人材だけではなく、人文・社会科学、STEAM教育、リベラルアーツ教育等の「高度かつ広範な汎用的能力を有する人材の育成」の必要性が述べられている。※2
- 高度人材育成の役割を担う我が国の大学・大学院教育を見ると、学部段階から専門的知識を身に付けることに注力する大学が圧倒的に多く、広範な汎用的能力を身に付けることを目的とした課程は一部の大学の学部教育での例が見られるのみ。
- また、そもそも我が国の高度人材たる修士号取得者の人口割合は、欧米に比べ低く、上記のとおりポストコロナ社会で必要とされる人文・社会科学分野や学際的な分野（その他分野）の割合が欧米に比して極端に低い。

※1 関連した主張

「Society 5.0の人材には、…リテラシー…、論理的思考力と規範的判断力、課題発見・解決能力、未来社会の構想・設計力、高度専門職に必要な知識・能力が求められ、これらを身に付けるためには、基盤となるリベラルアーツ教育が重要である」（令和2年3月 経団連 採用と大学教育の未来に関する産学協議会・報告書）

「It is in Apple's DNA that technology alone is not enough -it's technology married with liberal arts, married with the humanities, that yields us the results that make our heart sing.」（Apple創業者 Steve Jobs）

「コンピュータが人間のように振る舞うようになるにつれ、社会科学や人文科学が今まで以上に重要になるでしょう。…AIが人類へ貢献の可能性を最大限に発揮するためには、あらゆるエンジニアがリベラルアーツについて学び、あらゆるリベラルアーツ学部の学生がエンジニアリングを学ぶことが必要になるでしょう。」（「The Future Computed」2018年5月 Microsoft）

「なぜ、今、STEM教育が求められているのか。AIの進化によって社会の在り方が変わり、求められる能力が異なってきたから。そうした時代を生き抜くためには、“人間ならではの感性”と“AI・ロボットを使いこなす能力”の両方が求められると考えている。」「具体的には、STEM教育に「Art（アート）」を加えたSTEAM教育も長期的には取り入れていきたい」（ソフトバンク C&S 常務執行役員 瀧進太郎）

※2 関連した主張

「関与するファクターが増えすぎて、未来予測の難しい「複雑系の時代」に入る」（思想家 内田樹）
「肝心なのは無限の情報の中から、本質的な情報を選ぶことだ。…教養を持たないと、大局観が身に付かない。…民主主義社会ではリーダーだけが、大局観を持っていればよいわけではない。政治経済を動かすのは、国民である。国民こそが大局観を持つ必要がある。」（数学者 藤原正彦）

<課題の整理と課題解決に向けた対応策>

課題

- ポストコロナ社会においては、これまでと異なる社会を構想し、実現する役割を担う高度人材が必要となる。また、社会の各階層や個人のレベルで適切に状況を判断し、変化への対応や行動の変革が求められる。
- 現状の大学教育では専門的知識の修得に特化しているため、それを実社会へ活用するための教育が必要。
- 我が国の修士号取得者の割合は欧米に比べ全体的に低く、特に人社系分野等の割合が極端に低く、社会として高度人材の活用が進んでいない。

対応策

学部レベルで専門性を一定程度身に付けた人材等を対象とする大学院修士レベルでの高度に複雑化した課題に対応できる人材育成を行う大学院教育プログラムの構築を、積極的に進める

関連したデータ

人口100万人当たりの修士号取得者数（H29）

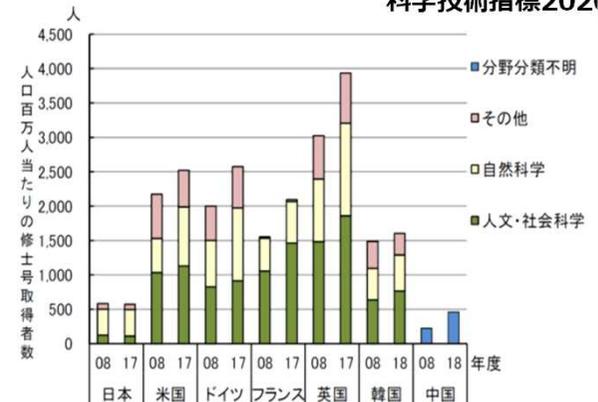
日本：574人（人社20%、その他12%）

アメリカ：2,520人（人社45%、その他21%）

イギリス：3,934人（人社47%、その他18%）

ドイツ：2,575人（人社35%、その他23%）

科学技術指標2020より



ポストコロナ社会を担う人材育成プログラム：ロジックモデル②（具体的な施策）

インプット

【ポストコロナ社会を担う人材育成プログラム】

**目的：ポストコロナ時代を担う高度人材の育成を行う
大学院教育プログラムの構築**

令和3年度要求額・要望額：1,500百万円

アクティビティ

○事業内容

・**ポストコロナ社会**に向けて、人文・社会科学分野やSTEAM、リベラルアーツ等による**広く深い知識の活用能力を身に付ける修士レベルの教育プログラム**の構築を支援し、**複雑な課題に対応し新たな社会を支える碩学たる人材の育成**を進める。

・対象：原則、修士課程が設置されている国公立大学

・要件：

- ・**人文・社会科学分野やSTEAM、リベラルアーツ**等の方法による広範な汎用的能力等を身に付けるための教育プログラムの開発・実施
- ・産業界等の社会との連携等により、**特定の分野・学問のみにとどまらない学修**
- ・Postコロナ時代の社会構築にあたって必要とされる、学部レベルや単独分野では対応し難い**高度に複雑化した課題に対応できる融合的な領域**
例) 公衆衛生、公共政策 等

○具体的なイメージ（例）

・地方自治体で複雑化した課題対応を担う人材：人間行動学や保健医療経済学等の専門知識と、外部機関へのインターンシップ等を通して実際の課題解決手法を身に付けて、地域社会を創り支える人材の育成を行う修士課程プログラム

アウトプット

(参考)
修士課程学生（1学年）全体の0.4%、人社系の4.0%
なお、制度上、人社系は理工系の1.4倍の学生を収容できる

【プログラム修了生数】

R3年度	－
R4年度	－
R5年度	(見込み420人)

【プログラム実施件数】

R3年度	(見込み14件)
R4年度	(継続見込み14件)
R5年度	(継続見込み14件)

本事業の直接の成果

【人文・社会科学分野の プログラム実施件数】

R2年度	(見込み7件)
R3年度	(継続見込み7件)
R4年度	(継続見込み7件)

初期アウトカム（R6年頃）

アウトプットを通じて得られる本事業の成果

【指標・変化している状況：修士課程修了者の就職状況等】

○修士課程への進学率

→ 本事業等をきっかけにポストコロナ社会を担う人材を育成する修士課程教育の充実により、修士課程進学者が増加。特に現状欧米に比して割合が極端に低い人文・社会科学分野で変化。

R1年度	10.5%
目標：+1.5%	↓ +8,600人
R6年度	12.0%

(参考) R1年度分野別進学率

人文科学	4.9%	理学	40.2%
社会科学	2.2%	工学	35.9%
教育	5.0%	農学	22.7%

○修士課程修了者の就職率

→ 本事業等をきっかけにポストコロナ社会を担う修士人材への期待により、修士課程修了者の就職率が向上。

R1年度	78.6%
目標：+1.5%	↓ +1,100人
R6年度	80.1%

(参考) R1年度分野別就職率

人文科学	52.6%	理学	77.2%
社会科学	65.4%	工学	90.2%
教育	72.7%	農学	80.2%

中期アウトカム（R7年頃）

本事業の先にある施策目標（他事業を含めた）

【指標・変化している状況：修士課程修了者の就職状況等】

- 修士課程への進学率が上昇傾向に転じる
- プログラム修了生の就職率 > 修士課程修了者全体の就職率

長期アウトカム（R8年頃）

【想定している・目指している状態】

- ・プログラム修了生が企業や地方自治体等で活躍する
- ・プログラム実施校を参考として、大学院教育の改革が広がる

(参考指標)
プログラム修了生の社会からの評価
(採用組織へのアンケート調査) 等

インパクト（R10年頃）

【想定している・目指している状態】

複雑化した課題に対応し、社会を積極的に支える「碩学」たる人材が各組織・地域において活躍する。大学院において（特に人文・社会科学分野において）アカデミア以外で活躍する高度知的人材の育成が活発化する。